



◆◆◆◆ 新任教員からの メッセージ ◆◆◆◆ 着任のご挨拶

機械知能システム学専攻 助教 陳 培基



2024 年 10 月に助教として着任いたしました陳培基（チンバイキ）と申します。このたび「通機会だより」をお借りして、ご挨拶申し上げます。

私は中国河南省の出身で、天津理工大学の修士課程在学中に、電気通信大学での 3 ヶ月間の短期留学の機会を得ました。この短期留学では、異なる研究環境での貴重な経験を積むとともに、最先端の技術や研究手法に触れることで視野を広げることができました。この経験をきっかけに、本学で研究を深めたいと考えるようになり、その後、文部科学省の国費奨学金を受けて再び本学に留学し、姜銀来先生の指導の下で博士号を取得いたしました。

博士後期課程では主に生体信号処理とロボットビジョン技術を組み合わせた義手の研究に取り組んでおりました。具体的には、筋電センサーと力筋センサーを統合したハイブリッドセンサーの設計や、生体信号を効率的に処理するためのニューラルネットワークの構築を行い、多様な使用条件に適応できる義手制御技術の可能性を探索してまいりました。また、ロボットビジョンを活用することで、義手が環境を認識し、動作生成を補助する仕組みについて検

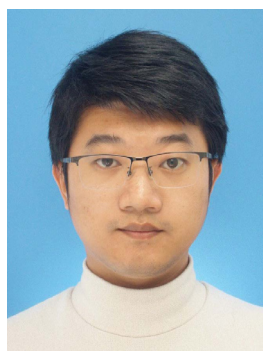
討を進めました。これらの研究を通じ、義手の操作性や適応性の向上に向けた基盤技術の構築を目指しておりました。

現在、助教としてこれまでの研究をさらに発展させ、環境や使用者の意図に柔軟に適応するインテリジェント義手の開発に取り組んでおります。単に動作を補助するだけでなく、使用者の生活環境に応じて進化し、より実用的かつ快適な義手の実現を目指しています。将来的には、これらの研究成果を医療福祉分野に応用し、多くの方々の生活の質を向上させることに貢献したいと考えております。

まだ至らぬ点も多い未熟者ではございますが、本学の教育・研究・運営活動に少しでも貢献できるよう努力してまいります。皆様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

機械知能システム学専攻 助教 王 軼煒



2025 年 4 月に助教として着任いたしました王軼煒（オウ イツイ）と申します。中国浙江省の出身で、中国中南大学エネルギー学科を卒業後、中国重型汽車集団（CNHTC）の杭州動力研究センターにて設計エンジニアとして 3 年間勤務しておりました。トラック用エンジ

ンの設計を通じて実践的な設計力を培うとともに、多様な課題にチームで取り組む経験を重ねました。

しかし次第に、国有企業の風土と自分の志向との

通機会だより第 51 号の内容

新任教員からのメッセージ… 1、第 38 回田中榮賞受賞者 … 2、田中榮賞受賞者からの寄稿 … 3、学内情報この一年 … 4、通機会会計報告 … 5、就職・進学状況 … 5

間にブレを感じるようになり、より創造的で探究的な研究に挑戦したいという思いから、2018年に退職し日本に留学しました。日本語学校と研究生課程を経て、電気通信大学大学院に進学し、姜銀来先生のご指導のもと、修士・博士課程を修了しました。

修士課程と博士課程では、ワイヤ干渉駆動とバネ・ワイヤ・プーリを組み合わせた新たな重力補償機構の開発に取り組みました。ロボットの体幹において高出力と柔軟性を両立させる機構を提案し、実験を通してエネルギー効率と動作精度の向上を実証しました。この成果は生活支援ロボットへの応用可能性も高く、次世代研究者挑戦の研究プログラムと立石財団研究助成Cにも採択されました。

現在は、しなやかな動作を可能にする上半身ロボットを基盤とし、人間の情動状態に応じた共感的動作を生成・表現するインタラクティブなヒューマン・ロボット・インタラクション (HRI) の構築を目指しています。深層学習を用いた情動推定と、運動拡散モデル (Motion Diffusion Model) による自然な動作生成の統合にも取り組んでいます。

教育面では、自身の設計現場と研究室の両方での経験を活かし、学生が実践と理論を往還しながら主体的に学べる環境づくりに尽力したいと考えております。

まだまだ未熟ではございますが、今後も教育・研究・学内運営に誠実に取り組み、本学の発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆◆◆ 第38回田中栄賞 ◆◆◆ 受賞者

令和6年6月

赤松 和昌 (課程博士 (学術))

「自然光景画像の階層的画像特徴量に対する注視の時空間特性に関する研究」

(指導教員：宮脇陽一教授)

令和6年9月

Nguyen Thanh Binh (課程博士 (工学))

「Elucidation of the Boiling Characteristics in the Sub-cooled Flow Boiling at Low Pressures (低圧強制対流サブクール沸騰中における沸騰特性の解明)」

(指導教員：大川富雄教授)

孫 国富 (課程博士 (工学))

「Integrated Study on Falling Liquid Jet and the Splashing Generation during Jet Impact onto a Horizontal Plate (下向き液噴流及び水平固体面衝突時の液撥ね現象に関する総括的研究)」

(指導教員：大川富雄教授)

陳 培基 (課程博士 (工学))

「Research on Measurement, Analysis, and Generation of Signals for Prosthetic Hand Control (義手制御用信号の計測・解析および生成に関する研究)」

(指導教員：姜銀来教授)

中川 慎二 (課程博士 (工学))

「データ駆動制御を応用した制御対象の特性変化検出方式の研究」(指導教員：金子修教授)

藤田 淳也 (課程博士 (工学))

「産業制御システムのサイバーセキュリティ対策を自動化するオントロジ駆動型モデリングに関する研究」(指導教員：金子修教授)

令和6年12月

鈴木 大樹 (課程博士 (工学))

「大脳皮質毛細血管の時空間変動に関する大規模画像解析」(指導教員：正本和人教授)

令和7年3月

王 軼煒 (課程博士 (工学))

「ワイヤ干渉駆動ロボット体幹のための重力補償機構の開発」(指導教員：姜銀来教授)

岡本 謙 (課程博士 (工学))

「異形工具を用いた5軸制御加工のためのコンフィギュレーション空間に基づいた工具経路生成に関する研究」(指導教員：森重功一教授)

森田 淳一 (課程博士 (工学))

「進行波によるバックステップ乱流の剥離制御」(指導教員：守裕也教授)

Raka Firman Baskara Permana (課程博士 (工学))

「Study on Boiling Entrainment from Falling Liquid Film on a Vertical Heated Surfaces (鉛直加熱壁上の流下液膜を対象とする沸騰液滴発生に関する研究)」(指導教員：大川富雄教授)

太中 裕貴 (課程博士 (工学))

「抽象代数学の手法による Data Informativity の解析と設計に関する研究」(指導教員：金子修教授)

田中栄賞受賞に関する御礼

機械知能システム学専攻 赤松 和昌

この度、博士（学術）の学位に加え、田中栄賞を授与していただき、誠にありがたく存じます。通機会の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、2011年に電気通信大学情報理工学部知能機械工学科に入学しました。学部4年時から宮脇研究室に所属し、ヒトの眼球運動とヒトの視覚野の情報処理に関する研究を開始しました。その後も2015年度からの知能機械工学専攻博士前期課程、2017年度からの機械知能システム学専攻博士後期課程においても宮脇先生のご指導の下、研究に取り組んできました。

博士の学位を取得できたのは、宮脇先生の丁寧なご指導のおかげです。基礎科学の研究においてすぐに研究成果が出ることは稀です。根気強く研究に取り組み、ときには自分の仮説が間違っているのではないかと自問自答しなければなりません。また、ヒトを対象とする研究であるため、コロナ禍においては大きな制限がかかるといった外的要因による辛いこともたくさんありました。しかし、学位を取得できた今、途中で諦めなくてよかったと強く思いますし、支えてくださった宮脇先生や宮脇研究室の後輩たちへの感謝が強くあります。

高校生の時に、脳科学、神経科学って面白そうだなと興味を持ってから15年近く経ちましたが、現在は博士の学位を持ち、神経科学の研究室で研究員として働いています。これは学部で電通大の知能機械工学科を受験したことがきっかけだと確信しています。電通大で関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

田中栄賞受賞にあたり

機械知能システム学専攻 岡本 謙

このたび、栄誉ある田中栄賞を頂戴し、大変光栄に思っております。通機会関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

私は2010年、学部4年生のときに森重研究室に配属され、博士前期課程まで在籍しました。その後、自動車部品メーカーに就職し、開発業務に携わってまいりました。2020年には転職し、現在は長野県の南信工科短期大学校で講師を務めています。この転職は、森重先生の後押しがあって実現したもので、大きな転機となりました。新しい職場で教える立場となり、自分の研究指導力の未熟さを痛感したことがきっかけで、2022年には博士後期課程に再入学し、9年ぶりに再び森重先生のご指導を受けることとなりました。

現在の研究テーマは、5軸制御加工のためのCAMソフトウェアの開発です。私が勤める長野県は、航空宇宙産業が盛んな地域で、多くの企業が5軸制御工作機械を導入しています。この地で5軸加工の研究を深めていくことは、地域の発展にもつながる大切な取り組みだと考えています。これまでは博士号の取得を目指して研究を進めてきましたが、今後は地域産業への貢献を目標に、研究を続けてまいります。森重先生、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

社会人として一度は現場を経験し、再び電通大で過ごしたこの3年間は、学生時代とはまた違った視点で学び直すことができ、すべてが新鮮で、かけがえのない貴重な時間となりました。最後になりますが、これまで支えてくださった皆様に心より感謝申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



令和7年3月25日に行われた授与式にて

◇◇◇ 就職支援活動報告 ◇◇◇

機械知能システム学専攻および学域Ⅱ類（融合系）・Ⅲ類（理工系）では「就職支援活動」の一環として、機械系専攻・類同窓会「通機会」と協力して、「人生設計第一（卒業生講演会）」を企画実施しています。

2024年度は、現場で活躍されている卒業生を講師としてお招きして、下記の通り2日間にわたり東5号館241教室を会場として実施しました。

<第1回>

日時：令和6年7月17日（水）14:40-16:10

題目：IT業界でどのように生きていくか

講師：榎山 友一氏（1989年博士前期課程修了）

所属：オン・デマンド・ワン株式会社 代表取締役

<第2回>

日時：令和6年7月24日（水）14:40-16:10

（講演1）

題目：ロボットメカでのキャリアサンプル

講師：寺崎 清氏（2012年博士前期課程修了）

所属：カワダロボティクス株式会社

（講演2）

題目：個人の時代に向けてのセルフブランディング

講師：畑 元氏（2015年博士前期課程修了）

所属：株式会社フライハイト 代表取締役

講師をお引き受けいただいた3名の卒業生の皆様本当にありがとうございました。通機会会員の皆様におかれましても、引き続きご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

メールアドレス再登録のお願い

通機会は、第12期（2026年7月）より運営体制を大幅に変更します。（詳細は、新通機会発足趣旨をご覧ください）今後はメールを主な連絡方法といたしますが、これまでの会員データは引き継がれませんので、改めてメールアドレスの登録をお願いいたします。

第11期通機会会長 小柳 洋、準備委員会一同



登録フォーム



新通機会発足趣旨

◇◇◇ 学内情報この一年 ◇◇◇

1. 教職員の異動など

令和6年10月1日

遊佐泰紀助教 准教授に昇任

令和6年10月14日

陳培基助教 採用（小泉研究室）

令和7年3月31日

澤田賢治准教授 大阪大学へ転出

大下雅昭助教 産業技術総合研究所へ転出

令和7年4月1日

王軼煒助教 採用（仲田研究室）

2. 卒業生と新入生の記録

令和6年9月30日 9月期修了

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 2名

機械知能システム学専攻 博士後期課程 5名

令和6年10月1日 10月入学

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 1名

機械知能システム学専攻 博士後期課程 3名

令和6年12月31日 12月期修了

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士後期課程 1名

令和7年3月25日 卒業式

情報理工学域

Ⅱ類 計測・制御システム 36名

Ⅱ類 先端ロボティクス 47名

Ⅲ類 機械システム 45名

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 118名

博士後期課程 5名

令和7年4月4日 入学式

情報理工学域

昼間コース 764名

夜間主コース（先端工学基礎課程）36名

情報理工学域 特別編入学

Ⅱ類 計測・制御システム 1名

Ⅱ類 先端ロボティクス 5名

Ⅲ類 機械システム 3名

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 109名

博士後期課程 11名

訃 報

本学名誉教授 皆川七郎先生（享年 97 歳）におかれましては、令和 6 年 9 月 11 日（水）に御逝去されましたので、ここに謹んでお知らせいたします。葬儀等は近親者のみで執り行われました。

訃 報

本学名誉教授 細川巖先生（享年 94 歳）におかれましては、令和 7 年 1 月 26 日（日）に御逝去されましたので、ここに謹んでお知らせいたします。葬儀等は近親者のみで執り行われました。

訃 報

本学名誉教授 青山尚之先生（享年 68 歳）におかれましては、令和 7 年 4 月 30 日（水）に御逝去されましたので、ここに謹んでお知らせいたします。葬儀等は近親者のみで執り行われました。
